

Asia Indicators

発表日: 2021年10月22日(金)

ニュージーランド、インフレ率は2四半期連続で目標超え (Asia Weekly(10/18~10/22))

~台湾、世界的な半導体需要の旺盛さを反映して輸出受注は堅調に推移~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

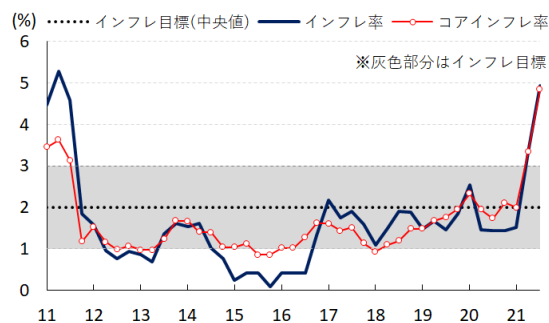
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/18(月)	(ニュージーランド)7-9月消費者物価(前年比)	+4.9%	+4.1%	+3.3%
	(中国)7-9月実質GDP(前年比)	+4.9%	+5.2%	+7.9%
	9月鉱工業生産(前年比)	+3.1%	+4.5%	+5.3%
	9月消費者物価(前年比)	+4.4%	+3.3%	+2.5%
	9月固定資産投資(年初来前年比)	+7.3%	+7.9%	+8.9%
	(シンガポール)9月非石油輸出(前年比)	+12.3%	+9.6%	+2.7%
10/19(火)	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	3.50%	3.50%	3.50%
10/20(水)	(台湾)9月輸出受注(前年比)	+25.7%	+17.0%	+17.6%
10/21(木)	(タイ)9月輸出(前年比)	+17.11%	--	+8.93%
	9月輸入(前年比)	+30.31%	--	+47.92%
	(香港)9月失業率(季調済)	4.5%	--	4.7%
10/22(金)	(マレーシア)9月消費者物価(前年比)	+2.2%	+2.1%	+2.0%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[ニュージーランド]~幅広くインフレ圧力が強まるなか、インフレ率は2四半期連続で目標を上回る推移が続く~

18日に発表された7-9月の消費者物価は前年同期比+4.9%となり、前期(同+3.3%)から加速して2四半期連続で中銀(NZ準備銀行)の定めるインフレ目標(2±1%)を上回る推移が続いている。前期比は+2.22%と前期(同+1.31%)から上昇ペースが加速しており、昨年後半以降における国際原油価格の上昇一服の動きを反映してエネルギー価格の上昇の動きが一服している一方、生鮮品を中心とする食料品価格は上昇の動きを強めており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。また、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同期比+4.8%と前期(同+3.3%)から加速しており、インフレ率と同様に2四半期連続でインフレ目標を上回る推移が続いている。前期比も+1.94%と前期(同+1.12%)から上昇ペースが加速しており、昨年後半以降におけるエネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、昨年以降における通貨NZドル相場下落による輸入物価への押し上げ圧力、変異株による新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染再拡大を受けた行動制限の再強化に伴うサプライチェーンの寸断も重なり幅広く消費財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、雇用がタイト化していることを反映してサービス物価も上昇の動きを強めるなど、幅広くインフレ圧力が強まっている。

図1 NZ インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～世界経済の回復が続くなか、世界的な半導体需要の旺盛さを反映して輸出受注動向は堅調に推移～

20日に発表された9月の輸出受注額は前年同月比+25.7%となり、前月（同+17.6%）から伸びが加速した。前月比も+4.51%と前月（同▲2.90%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど、過去数ヶ月に亘って頭打ちの動きをみせてきた流れは一転底打ちしている。世界的な半導体需要の旺盛さを反映して、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連を中心に堅調な動きが続いているほか、化学製品など素材及び部材などに対する受注にも底堅さがみられる。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国本土向けは引き続き底堅く推移しているほか、米国向けや日本向けも堅調さを維持している上、前月に大きく調整した欧州向けも大きく底入れするなど、世界経済が依然として拡大していることを反映した動きが続いている。

図2 TW 輸出受注の推移



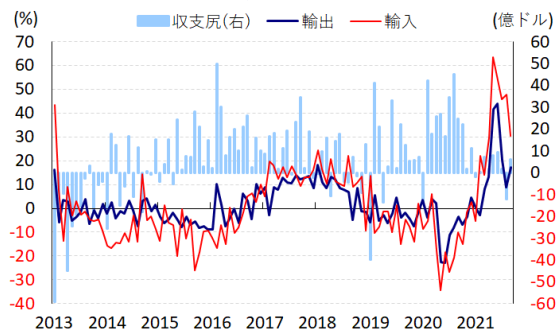
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～行動制限の段階的解除を反映して頭打ちしてきた輸出に底打ち感、輸入も底堅い動きが続いている～

21日に発表された9月の輸出額は前年同月比+17.11%となり、前月（同+8.93%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、頭打ちが懸念された動きに底打ち感が出ている様子がうかがえる。変異株による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大の動きが頭打ちしたことを受けて、政府が行動制限の段階的な緩和に動いており、生産活動が再開されていることを反映して主力の輸出財である自動車関連や電気機械関連などを中心に輸出が底打ちしていることが影響している。一方の輸入額は前年同月比+30.31%となり、前月（同+47.92%）から伸びが鈍化した。前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。輸出の底打ちの動きを

反映して生産活動に必要な素材及び部材関連の輸入が押し上げられているほか、原油をはじめとする国際商品市況の上昇の動きも輸出額を下支えしている。結果、貿易収支は+6.10億ドルと前月（▲12.16億ドル）から2ヶ月ぶりの黒字に転じている。

図3 TH 貿易動向の推移

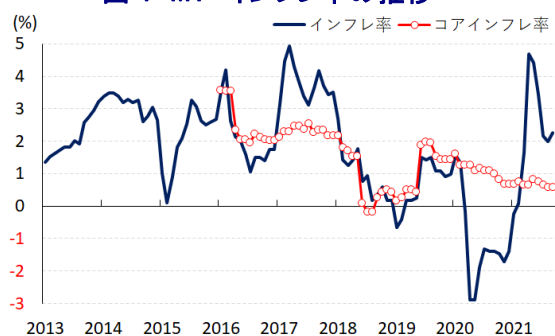


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～生活必需品を中心にインフレ圧力がくすぶる一方、コアインフレ率は引き続き低水準で推移～

22日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+2.2%となり、前月（同+2.0%）から伸びが加速した。前月比も+0.24%と前月（同+0.00%）から上昇ペースが加速しており、生鮮品を中心とする食料品価格が上昇するなど、生活必需品で物価上昇圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.58%と前月（同+0.58%）から同じ伸びで推移している。ただし、前月比は+0.08%と前月（同+0.16%）から上昇ペースは鈍化しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れを反映して一部の消費財価格に押し上げ圧力が掛かる一方、変異株による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大を受けた行動制限の再強化の動きを反映してサービス物価に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、物価を巡る動きはまちまちの状況にある。

図4 MY インフレ率の推移



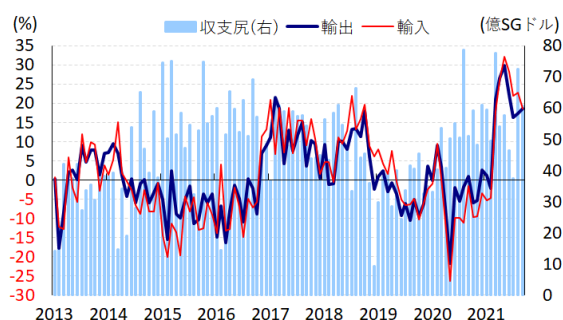
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～国際原油価格の上昇一服の動きを反映して、輸出入双方で頭打ちする動きが強まる兆し～

18日に発表された9月の非石油輸出額は前年同月比+12.3%となり、前月（同+2.7%）から伸びが加速した。前月比も+1.25%と前月（同▲3.54%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの状況が続いている。世界的な医薬品需要の堅調さなどを反映してバイオ医薬品関連や化学製品関連の輸出に底堅さがうかがえる一方、主力の輸出財である電気機械関連を中心に下押し圧力が掛かっていることが重石となっている。原油関連を併せた総輸出額も前年同

月比+18.7%と前月（同+17.4%）から伸びが加速しているものの、前月比は▲1.0%前月（同+4.5%）から2ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちしている。国際原油価格の上昇一服を反映して原油関連の輸出額に下押し圧力が掛かったことも影響している。一方の輸入額は前年同月比+18.7%となり、前月（同+22.8%）から伸びが鈍化している。機械製品関連や化学製品など素材及び部材関連の輸入に堅調さがうかがえる一方、原油及び石油製品関連の輸入に下押し圧力が掛かったことが重石となっている。結果、貿易収支は+60.70億SGドルと前月（+72.58億SGドル）から黒字幅が縮小している。

図5 SG 貿易動向の推移

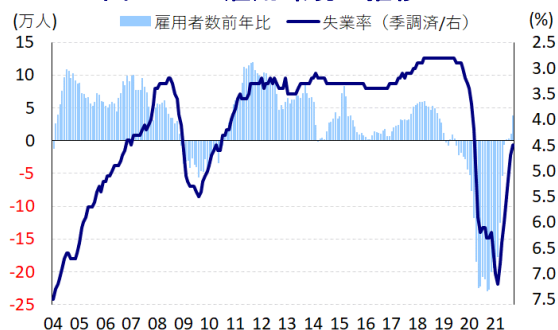


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[香港]～新型コロナ禍からの景気回復の動きを反映して、幅広い分野で雇用を取り巻く環境は大きく改善～

21日に発表された9月の失業率（季調済）は4.5%となり、前月（4.7%）から0.2pt改善して昨年3月以来の低水準となっている。失業者数は前年同月比▲7.5万人と4ヶ月連続で減少している上、前月（同▲5.9万人）からそのペースは加速するなど大きく減少している。一方の雇用者数も前年同月比+3.8万人と4ヶ月連続で拡大しており、前月（同+1.0万人）からペースも加速するなど底入れが進んでいる上、不完全雇用者数も同▲7.0万人と前月（同▲6.4万人）から減少ペースも加速しており、雇用を巡るミスマッチの解消が進んでいる様子が見えてくる。新型コロナ禍からの回復が進んでいることを反映して、建設関連やビジネスサービス関連を中心に雇用回復の動きが強まっているほか、新型コロナ禍の影響が色濃く出た小売関連や観光関連でも雇用が底打ちしており、幅広い分野で雇用を取り巻く環境が改善している。

図6 HK 雇用環境の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。